|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 授業科目名 | 日本語研究B | 教員名 | 坂本 一信 | 免許・資格との関係 |  |  |
|  |  |
|  |  |
| 授業形態 | 講義 | 担当形態 | 単独 |  |  |
| 科目番号 | JESB | 配当年次 | 3年次後期 | 卒業要件 |  | 必修 |
| 単位数 | 1単位 |  |  |  |  |  |
| 科目 |  | | | | | |
| 各科目に含める必要事項 |  | | | | | |
| 一般目標 | ・日本語への関心を高め、日本語の特色を理解する。【日本語への関心・理解】  ・日本語の様々な特色への理解を深め、自分の生き方や社会との関わりに関心を持ち、よりよい生き方の一助とする。【生き方の探求】 | | | | | |
| 到達目標 | (1)言語文化に対する関心を深め、それらを尊重しつつ、国際人としての視野を広げる。  (2)読書に親しみ、読書の幅を広げ、生き方の探求につなげる。  (3)実用的、実務的な日本語の特色を身につける。  (4)話題や題材を生かし、様々な場面において的確に表現することができる。  (5)様々な立場や文化の違いを尊重し、論理的に思考することができる。 | | | | | |
| ディプロマ・ポリシーとの関係 | 本講義は、学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「１．クリティカル・シンキング（批判的・分析的思考法）をベースにした高度な思考（比較、分析、総合、評価）能力を身につけている。２．日本文化と外国の諸文化に対する広範な知識とその比較を通して得た、高い異文化理解・受容能力を身につけている。４．日英両語における高度なコミュニケーション能力を身につけている。」を育成する科目として配置している。 | | | | | |
| 授業の概要 | 現代はグローバル化が進み価値観が多様化し、ＳＮＳの浸透により言語環境も大きく変化している。しかし、その中にあって日本語の特色を理解し、論理的に思考する力、豊かな発想の核となる日本語に関する基礎力が必要不可欠なものとなっている。本講義では、日本語の特色への造詣を深め、適切かつ効果的に表現する能力の育成を目指し、基本的な言語感覚を醸成するとともに、相互評価を通して相互理解をより深めることを目標とする。内容は、日本語に対する既成概念を覆し、それによって興味関心を喚起し、実践的な日本語力の育成を目指すとともに、国際人としての幅広い視野を持たせたい。 | | | | | |
| 授業計画 | 第１回：授業概要説明　授業の目的、内容、方針（目標(1)～(5)）  第２回：日本語への興味関心のために（地元が素材の文学作品から）（目標(1)(2) (3) (5)）  第３回：日本語への興味関心のために（上手な会話のために①、地名の由来から）（目標(1)(3) (4) ）  第４回：日本語への興味関心のために（上手な会話のために②、名前の由来から）（目標(1)(3) (4) ）  第５回：日本語への興味関心のために（上手な会話のために③、古典から）（目標(1)(2) (4) (5)）  第６回：日本語への興味関心のために（上手な会話のために④、古典から）（目標(1)(2) (4) (5)））  第７回：日本語への興味関心のために（上手な会話のために⑤、文法から）（目標(1)(2) (4) (5)））  第８回：日本語への興味関心のために（上手な会話のために⑥、文法から）（目標(1)(2) (4) (5)））  定期試験：第１回～第８回の総合問題 | | | | | |
| 学生に対する評価 | 定期試験40%、課題・レポート作成30%、発表30%  なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。  ・コメントを記載して返却する。・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。  ・答案例を配布する。 | | | | | |
| 時間外の学習  について | 講義における創作課題については、指定された日までに必ず提出するすること。また、発表準備を周到に行うこと。事後学習として課されるレポートを提出すること。 | | | | | |
| 教材にかかわる情報 | 授業時に、適宜プリントを配布する。 | | | | | |
| 担当者からの  メッセージ | 特になし | | | | | |
| オフィスアワー | 授業前後の時間。その他、必要に応じて実施する。 | | | | | |
| 備考 |  | | | | | |